



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2010年4月現在、川崎2、横浜5、県域10 計17名で活動中!!

～ '09 神通研集会報告⑥ ～

◎「大震災発生3日後の避難所で心配なこと」

<第1グループ>

- ・食料、水
- ・トイレ、風呂
- ・着替え
- ・ライフライン
- ・家族の安否
- ・自宅の様子
- ・今後の暮らし
- ・プライバシー
- ・病気、怪我
- ・通信手段
- ・情報
- ・手話ができる人がいるかどうか
- ・筆談でやり取りできるかどうか
- ・過ごし方

まとめ

- ①救援物資の確保 ②情報保障 ③通信・連絡
- ④家族の安否 ⑤心理面・コミュニケーション
- ⑥衛生面 ⑦医療面 ⑧今後 ⑨避難所の状況

1～5の順位

- 1、食事と排泄
- 2、情報
- 3、避難所の状況
- 4、衛生面
- 5、今後の生活

～ 定例会 '10/3/28 (日) ～

手話検定、通訳者派遣とNPO法人の参入が少しずつ増えてきています。手話を取り巻く環境の多様化は、今後も増加していくでしょう。

社会が多様化していく中で、よりよいサークル活動を継続していくためには、排他的ではなく、互いに寛大な心で認め合い、自立し、支え合っていくことが大切です。

【次回定例会】

'10/4/24 (土) 12:10~14:00
県民サポートセンター 701

～サークル研究班メンバーのささやき～

防災対策として備蓄食品は、つついっし期限切れになりもったいないので、常に食べられて災害時にも役立つものを常備することにしました。

ペットボトルの水は安い時に仕入れておくと、急に出かけるときにも便利。じゃがりこのサラダ味はお湯を注いでかき混ぜるとポテトサラダになり、パンにのせればサンドイッチになり、一人暮らしの生活にも役立ちます。クラッカーも、ジャムやピーナツクリーム、チョコレートなどをのせるとおいしく食べられます。

今、私がはまっているのは、クラッカーにクリームチーズをのせて食べる方法。いろいろなチーズと出会い、おいしさについつい手を出してしまい、切らさないように買い置きをして防災気分を楽しんでいます。

アッチャンより